横浜市立 大綱中学校　　学校評価報告書　　（ 令和 4 ～ 6 年度 ）

重点取組分野	令和 4 年度 具体的取組	令和 4 年度 自己評価結果	総括
授業改善	①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、各教科で意図的に意見交換する時間を設定し、多面的・多角的な見方や考え方で、学びを人生や社会とつなげ、知恵をはたらかせて問題を解決する力を育む。②生徒による授業評価を分析し、教科横断的な視点からの授業改善につなげる。	「主体性を引き出すICTの効果的な活用」をテーマとした授業向上weekや小中合同授業研究会を実施した。また、生徒による授業評価の質問項目を再検討し、授業実践とその効果の関係を分析した。ICTを効果的に活用するための生徒・教員両者が抱える課題が明らかになった。	B
道徳・人権教育	①生徒会活動の「いじめ防止プロジェクト」の推進を継続し、生徒自身の当事者としての自覚を高め、いじめを許さない学校風土の確立に専心する。②体育祭や合唱コンクールなどの行事や道徳、日々の学習、部活動を通して、自己肯定感を育てるとともに相手の存在を大切にする心を育てる。	いじめ防止PJでは、相手とのコミュニケーションにおいて、相手を尊重してお互いに気持ちの良い対応について考える機会となった。次年度からは、日常的にいじめ防止・抑止に向けた発信を中心とした活動を目指す。ローテーション道徳の実践を推進し、教科としての充実を図ることで自己肯定感の育成が実現できた。行事や部活動を通した道徳教育を充実させたい。	B
健康教育	①健康の在り方についての学習を広める方法として、外部専門家→学校保健委員会→代表生徒→一般生徒という流れを継続する。②運動部の怪我やスポーツ障害に加えて、体育実技の授業における怪我の発生を予防するために新聞などの啓発活動を充実させる。	生徒が心身ともに健康的な学校生活が送れるよう、生徒保健委員会の活動を通し、発信することで全校生徒の意識を高めることができた。また、日常の体育や体育的行事、部活動における怪我やスポーツ障害の発生については、事例に応じた対応を振り返り予防に努めた。	B
自分づくり教育（キャリア教育）	①地域の教育力を生かし、職業講話、職業調べ、職場体験学習を実施し、働くことの意義と責任について学ぶ。②平和学習、校外学習などを通して探究的な学習に取り組ませ、課題設定・問題解決能力や資質を育成し、自己の生き方を考えることができるようにする。	①校外の教育力を生かし、企業によるキャリア教育、職業調べ、職業講話を実施し、働くことの意義と責任について学ぶことができた。②平和学習、校外学習を通して探究的な学習に取り組ませ、課題設定・問題解決能力や資質を育成し、自己の生き方を考える機会を設けることができた。今後も継続して取り組んでいきたい。	B
いじめへの対応	①「自他を大切にし」の学校教育目標のもと、誰もが安心して教育活動に参加し、自己肯定感を高め、いじめを許さない学校風土の確立に専心する。②校長をリーダーに、定期的に「いじめ防止対策委員会」を開催し、実態把握、分析を行い、速やかに関係機関と連携をとりながら解決をはかる。	「いじめ防止対策委員会」を毎月実施し、実態把握とその解消に向けて、組織的に取り組むことができた。また、Y-Pアセスメントを活用し、生徒自身の自己肯定感が高まっているかどうかを観察する一助とした。今後、職員全体によりていねいに情報共有がされるよう連絡を密にしていきたい。	B
人材育成・組織運営(働き方)	①職員の資質向上のため、授業力、生徒指導力など実践力養成に役立つ校内研修を実施する。②部活動休養日の設定、外部指導者の登録、会計業務の負担軽減など持続可能な部活動の在り方を検討する。③職員室業務アシスタントを活用して、子どもの指導に専念できる環境を整える。	メンターチーム研修を行う中で話しやすい環境づくりも行っていった。日々の教育活動の中で話し合い助言を受けることで指導力の向上を図った。 部活動については、会議や点検作業等の日は一斉下校にし、作業時間を確保できるようにした。また、業務アシスタントに委託できるものを積極的に活用した。	B
生徒指導	①年間3回設定されている教育相談週間を継続し、外部機関との連携をとりながら着実に課題の解決を図っていく。②役割や責任をもたせる様々な教育活動により、自分から学び、自ら調整できるような自己学習力や自己調整力を育成していく。	①教育相談の期間に他の行事の準備等もありなかなか担任が時間をとることができないこともあった。次年度は担任に余裕がもてるように工夫していきたい。②一人ひとりが自分で正しく決定し活動できる学校づくりを継続していきたい。	B
特別支援教育	①多様性を理解するために、授業のユニバーサルデザイン化や合理的配慮を実施するための合意形成の在り方などについて教職員全体で正しく理解するための研修会を年3回以上実施する。②新たな課題に対して、スクールカウンセラーや関係諸機関との連携を見直し、強化する。	①9月に特別支援学校のセンター的機能を活用し、関係機関との連携についての研修を行った。また、1月には特性理解のための研修を人権教育と協力して行った。②委員会を月1で開催し、情報共有を行った。また、SSW、カウンセラーとの定期的な連携の機会を設けた。	B
地域連携	①体育祭、合唱コンクールなどのPR活動、部活動発表会への招待、地域事業所と連携した教育活動、学校HP（大綱デイズ）による日々の教育活動の情報発信など、地域との双方向の協力体制を今後も深めていく。②保護者・地域との粘り強い連携により、自他を大切にする風土づくりを目指す。	コロナ禍の影響がまだ残るなかで、まだ地域の連携は難しさがあった。そのなかで、地域祭礼のパトロールやキャリア学習における職業講話など、地域と連携を図る機会を少しずつ戻すことができた。	B

ブロック内評価後の気付き	小中一貫授業研究を通じて、小中9年間で身に付けたい能力の確認を行った。また今年度のテーマであるICT活用について、小中でどのような取組をしているか情報を共有し、学年に応じた能力育成の必要性を確認した。小中9年間を通じて、どのようにICT活用能力を育てていくか系統立てて計画をつくっていきたい。また、小中連携事業として児童の授業参観など、コロナ禍でできなかったことを少しずつ実施できたので、少しずつコロナ以前の交流を目指していきたい。
学校関係者評価	昨年度に続き、年間を通して教育活動に制約が続く中、研修会等で職員の研鑽の機会をもつなど、きめ細かい対応や工夫を重ねていることなど、皆さんの努力は大変だったと理解しております。まち懇やHP等の紹介等を通じて学校生活や登下校の様子を見る限り、コロナ渦でも柔軟に対応する生徒の姿が見て取れます。新しい生活様式を機に、生徒たちが地域の住民としての自覚をもてるような関係づくりを学校運営協議会なども活用し、検討する必要を感じています。大綱中学校の生徒たちが健全で自立した大人に育つよう、今後も取組を継続されることを期待しています。
中期取組目標振り返り	昨年度に続き、学校行事や地域との連携が制限されたが、校内では、いじめ防止対策委員会での実態把握と未然防止の対応、解消に向けた方策の検討を重ね、いじめを生まない環境や雰囲気づくり、生徒自身の当事者意識を高めることに努めた。授業や委員会活動、部活動などを活用し、生徒が自己肯定感を高め、学校生活の中で多様性を尊重し、誰もが安心して、学び合い、協働できるような学級、学年、学校づくりに努めた。新学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、授業改善に取り組んだ。今後も社会の形成者として、持続可能な社会を創造できる人を育てていきたいと考える。

重点取組分野	令和 5 年度 具体的取組	令和 5 年度 自己評価結果	総括
授業改善	①妥当性・信頼性の高い評価を目指し、昨年度の評価を振り返り、「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法を教科横断的な視点から再検討する。②「生徒の主体性を引き出す授業実践」をテーマに、意見交換する時間を設定し、デジタルとアナログそれぞれの長所を生かした授業改善を行う。		
道徳・人権教育	①朝会や評議会を通して、いじめを防止・抑止できるような取り組みを進める。生徒会本部が積極的に発信できるよう活動していく。②ローテーション道徳の実践をさらに推進し、質の向上と学校全体での共有を進める。さらに行事における道徳教育の推進を充実させる。		
健康教育	①生徒が主体的に心身ともに健康的な学校生活ができることを目指し、場面や個に応じた保健指導や、生徒会活動による生徒の主体的な発信を行う②日常の学校生活における怪我や体育的行事、部活動における怪我が起こる要因を分析し、危機管理意識を高め、対応を振り返って学校事故の予防を行う。		
自分づくり教育（キャリア教育）	①地域の教育力を生かし、キャリア教育（職業講話、職業調べ）を実施し、働くことの意義と責任について学ぶ。②平和学習、校外学習などを通して探究的な学習に取り組ませ、課題設定・問題解決能力や資質を育成し、自己の生き方を考えることができるようにする。		
いじめへの対応	①「自他を大切にし」の学校教育目標のもと、「横浜プログラム」等も活用するなかで自己肯定感を高め、いじめを許さない学校風土の確立に専心する。②校長をリーダーに、定期的に「いじめ防止対策委員会」を開催し、実態把握、分析を行い、速やかに関係機関と連携をとりながら解決をはかる。		
人材育成・組織運営(働き方)	①メンター研修を始めとし、職員の資質向上のための研修実施とともに、日々の教育活動の中でお互いに助言しやすい環境づくりを行う。②職員の業務が滞りなく進むように、組織として業務の精選を行い、見通しをもった計画を作成する。また、事務作業に専念できるような時間の確保を行う。		
生徒指導	①課題に着実に取り組むことができるように。教育相談の期間や時間の確保できる環境づくりをしていく。またアンケート等を活用し子どもたち、実態を把握していく。②一人ひとりがしっかり判断できるように講習会などを開いていきたい。		
特別支援教育	①多様性を理解するために、合理的配慮を実施するための合意形成の在り方などについて教職員全体で研修会を年3回以上実施し、課題解決能力を高める。②特別支援教室推進を行う。職員の特別支援に対する理解を深め、特別支援教室が「生徒が自らのペースで学習や生活を整えられる場」となるよう、登校支援を行う。		
地域連携	①体育祭、合唱コンクールなどのPR活動、部活動発表会への招待、地域事業所と連携した教育活動、学校HPによる日々の教育活動の情報発信など、地域との双方向の協力体制を今後も深めていく。②保護者・地域との粘り強い連携により、自他を大切にする風土づくりを目指す。		

ブロック内評価後の気付き	
学校関係者評価	
中期取組目標振り返り	

重点取組分野	令和 6 年度 具体的取組	令和 6 年度 自己評価結果	総括
授業改善	c1		
道徳・人権教育	c2		
健康教育	c3		
自分づくり教育（キャリア教育）	c4		
いじめへの対応	c5		
人材育成・組織運営(働き方)	c6		
生徒指導	c7		
特別支援教育	c8		
地域連携	c9		
	c10		

ブロック内評価後の気付き	
学校関係者評価	
中期取組目標振り返り	